



小・中学校での読み聞かせに
おすすめの本

©野見山響子

春日部市教育委員会

このリストは、小学校・中学校などで読み聞かせをする方のために、司書職員がおすすめする絵本を選んだものです。読み聞かせをする際の参考にしてください。

(凡例)

- 多くの人数への読み聞かせに適した本 100 冊を紹介しています。
- 書名の五十音順に掲載しています。

●各事項について

番号	書名		
	著者名	出版社	分類
本の表紙	対象年齢	読み聞かせの時間	件名
	あらすじ		

- ・対象年齢と読み聞かせの時間は、目安です。読み手と聞き手の信頼関係があれば、少々難しい本でも楽しめます。

対象年齢 低：低学年
 中：中学年
 高：高学年
 中学：中学生

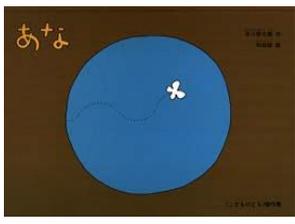
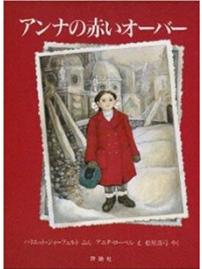
・件名

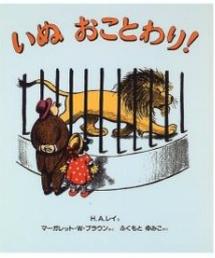
ストーリーの主題や主人公を表す言葉（キーワード）です。書名から類推できる件名は省いています。

- 紹介した本は、春日部市立図書館で所蔵しています。
- 教育委員会及び市立図書館では、絵本の選び方や読み聞かせ方などについてのご質問、ご相談をお受けしています。お気軽にご利用ください。

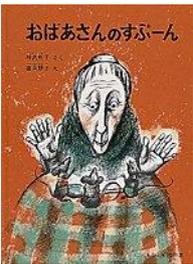
平成31年4月改訂

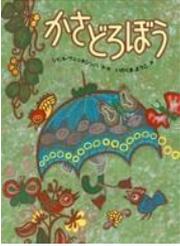
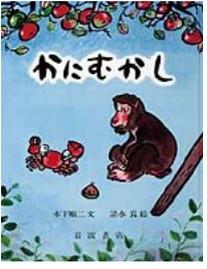
編集：春日部市教育委員会社会教育課

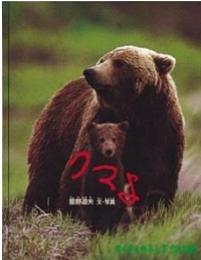
1	あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま イ ヨンギョン/文・絵 神谷丹路/訳 福音館書店 E903.6 イ						
	<table border="1" data-bbox="486 197 890 241"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>6分</td> <td>韓国</td> </tr> </table> <p>昔、お針仕事が上手な「あかてぬぐいのおくさん」がいた。ある日、あかてぬぐいのおくさんがうたた寝をしている間に、お針仕事に使う7つの道具たちが、この中で一番大事なものは誰かと言い争いを始めた。目を覚ましたあかてぬぐいのおくさんは、「一番偉いのは私だ」と怒って道具たちを叱りつける。</p>	低	中	高	中学	6分	韓国
低	中	高	中学	6分	韓国		
2	あたまにつまった石ころが キャロル・オーティス・ハースト/文 ジェイムズ・スティープンソン/画 千葉茂樹/訳 光村教育図書 E903.6 ス						
	<table border="1" data-bbox="486 638 890 683"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>9分</td> <td>石・仕事</td> </tr> </table> <p>小さい頃から好きな石を集め続け、周囲に「ポケットにも頭の中も石ころがつまっている」と言われた男がいた。仕事が忙しい時も、不景気で貧しさが増しても、石への情熱は持ち続けた。やがて科学博物館の館長との出会いがきっかけで、大学にも行かなかった男は博物館の鉱物学部長になる。</p>		中	高	中学	9分	石・仕事
	中	高	中学	9分	石・仕事		
3	あな 谷川俊太郎/文 和田誠/画 福音館書店 E903.6 フ						
	<table border="1" data-bbox="486 985 890 1030"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>3分</td> <td>穴</td> </tr> </table> <p>「にちようびの あな、なにもすることがなかったので、ひろしは あなを ほりはじめた」。家族や友達がきても、何にするのかと聞かれても、ひろしは自分ひとりで、あなを掘り続ける。そして、あなを掘るのをやめて、座り込む。ひろしは、静かな土のいい匂いのするあなに座って思う。「これは ぼくの あなだ」。</p>		中	高	中学	3分	穴
	中	高	中学	3分	穴		
4	アンガスとあひる マージョリー・フラック/作・絵 瀬田貞二/訳 福音館書店 E903.6 フ						
	<table border="1" data-bbox="486 1388 890 1433"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>犬</td> </tr> </table> <p>知りたがりやの子犬のアンガスは、何でも知りたがった。特に庭の境にある生け垣の向こうから聞こえてくるやかましい音が気になって仕方がない。ある日、ドアから表に飛び出したアンガスは、その音の正体を確かめようと生け垣の向こう側に行って、2羽のあひるに出会った。</p>	低				5分	犬
低				5分	犬		
5	アンナの赤いオーバー ハリエット・ジューフェルト/文 アニタ・ローベル/絵 松川真弓/訳 評論社 E903.6 口						
	<table border="1" data-bbox="486 1809 890 1854"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>クリスマス</td> </tr> </table> <p>戦争が終わり、アンナは新しいオーバーを買ってもらえることになった。しかしお店は空っぽで食べ物もお金も持っている人はいない。アンナのお母さんは、家にある金時計とお百姓さんの羊の毛を取りかえてもらう。そうして家のものと取りかえながら、羊毛は毛糸に、毛糸は布に。最後に仕立ててもらい、何か月も待ち続けたオーバーができあがった。</p>	低	中			6分	クリスマス
低	中			6分	クリスマス		

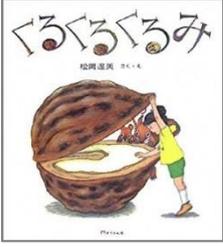
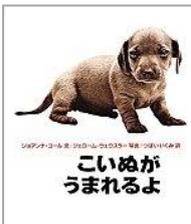
6	「イグルー」をつくる ウーリ・ステルツァー/文・写真 千葉茂樹/訳 あすなろ書房 E903.6 ス						
	<table border="1" data-bbox="478 190 893 246"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>5分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 246 1469 454">北極に住むイヌイットは、大昔から「イグルー」という雪の家を作って暮らしている。大きさも自在で移動生活のイヌイットにはちょうどいい。いい雪を見つけると、のこぎりで雪のブロックを切り出し、渦巻形に積んでいく。天井を綺麗に丸くし、煙突や氷の窓、出入り口を作る。</p>	低	中	高		5分	科学絵本
低	中	高		5分	科学絵本		
7	いたずらきかんしゃちゅうちゅう バージニア・リー・バートン/文・絵 村岡花子/訳 福音館書店 E903.6 バ						
	<table border="1" data-bbox="478 555 893 611"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>12分</td> <td>機関車</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 611 1469 846">小さな機関車のちゅうちゅうは、重い客車や貨車を引っ張りながら、小さな町から大きな町へと走っている。ある日、ちゅうちゅうは重い客車を引くのがいやになり、ひとりで走りだした。町や原っぱをどんどん走っていくと、やがてあたりは暗くなり、燃料がなくなったちゅうちゅうは迷子になってしまった。</p>	低	中			12分	機関車
低	中			12分	機関車		
8	いつもちくのおとこのこージョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー ジョン・バーニングム/作 たにかわしゅんたろう/訳 あかね書房 E903.6 バ						
	<table border="1" data-bbox="478 947 893 1003"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>4分</td> <td>学校・先生</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1003 1469 1256">ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシーが学校に行く途中、一匹のわにがマンホールからあらわれ、ノーマンのかばんにかみついて離さない。わにのせいで遅刻をしたノーマンは先生に説明するが、うそだと怒られる。次の日はライオンのせいで、そのまた次の日は高潮のせいで遅刻するが、先生にうそだと怒られ罰を与えられてしまう。だが次の日…。</p>	低	中	高		4分	学校・先生
低	中	高		4分	学校・先生		
9	いぬおことわり！ マーガレット・ワイズ・ブラウン/作 H.A.レイ/画 福本友美子/訳 偕成社 E903.6 レ						
	<table border="1" data-bbox="478 1357 893 1413"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>動物園</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1413 1469 1655">あるところに、動物園に行ってみたいと思っている犬がいた。ある日、飼い主のおじさんが犬を動物園に連れて行ってくれることになった。ところが、動物園の入口には「犬おことわり！」と書いてあった。そこで、おじさんは犬に人間の子どものかっこうをさせ、小さい女の子のふりをさせて動物園に行くことにした。</p>	低				6分	動物園
低				6分	動物園		
10	ウルスリのすず ゼリーナ・ヘンツ/文 アロワ・カリジェ/絵 大塚勇三/訳 岩波書店 E903.6 カ						
	<table border="1" data-bbox="478 1756 893 1812"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>15分</td> <td>スイス・冬</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1812 1469 2027">高い山々の奥にウルスリという小さい男の子が住んでいた。明日は鈴行列のお祭りというある日、男の子たちは鈴を借りに行った。ところがウルスリは一番小さな鈴しかもらえずがっかりする。だが、山の上にある夏小屋には大きな鈴がかかっていたことを思い出し、一人で雪の残る山を登っていく。</p>		中	高	中学	15分	スイス・冬
	中	高	中学	15分	スイス・冬		

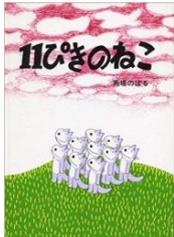
11	おおかみと七ひきのこやぎ フェリクス・ホフマン/絵 瀬田貞二/訳 福音館書店 E903.6 ホ						
	<table border="1" data-bbox="472 197 1455 257"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8分</td> <td>グリム童話</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 257 1455 474">昔あるところに、お母さんやぎと7匹の子やぎがいた。ある時、お母さんやぎは森へ食べものを探しに行った。その留守の間、オオカミがやって来て、家の中にいる子やぎたちを食べようとする。オオカミは、自分はお母さんやぎだと嘘をつき、子やぎに家の戸を開けさせようとする。</p>	低				8分	グリム童話
低				8分	グリム童話		
12	おおきなかぶ A・トルストイ/再話 佐藤忠良/画 内田莉莎子/訳 福音館書店 E903.6 サ						
	<table border="1" data-bbox="472 571 1455 631"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>ロシア民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 631 1455 891">おじいさんの植えたかぶが、とてつもなく大きくなった。あまり大きいので、おじいさん一人では抜くことができない。そこで、おじいさんはおばあさん呼んできて二人で抜こうとするが、かぶは抜けない。おばあさんは孫を呼んだが抜けず、犬、猫と次々に呼んで皆でひっぱるが抜けない。最後にねずみ呼んできて、やっとかぶは抜ける。</p>	低				6分	ロシア民話
低				6分	ロシア民話		
13	おかえし 村山桂子/作 織茂恭子/絵 福音館書店 E903.6 オ						
	<table border="1" data-bbox="472 987 1455 1048"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>引越し・たぬき・きつね</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1048 1455 1265">ある日、たぬきの家のとなりにきつねが引っ越してきた。きつねが引っ越しのあいさつに、たぬきの家にいちごをもっていくと、たぬきはおかえしに、たけのこをきつねの家にもっていく。すると、きつねはそのおかえしにと花と花びんをたぬきの家にもってきた。たぬきはそのおかえしに…。</p>	低	中			6分	引越し・たぬき・きつね
低	中			6分	引越し・たぬき・きつね		
14	おじさんのかさ 佐野洋子/作・絵 講談社 E903.6 サ						
	<table border="1" data-bbox="472 1361 1455 1422"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>8分</td> <td>雨・歌</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1422 1455 1682">おじさんは、黒くて立派なかさを大事にしている。いつも持って出かけるが、傘が濡れるのが嫌で雨が降っても使わない。あるとき公園で雨に降られ、男の子に傘に入れてと頼まれるが、聞こえないふりをする。男の子は友だちの傘に入って歌いながら帰っていった。その歌が気になったおじさんは、自分の傘を開いて雨の中に入って行く。</p>	低	中	高	中学	8分	雨・歌
低	中	高	中学	8分	雨・歌		
15	おしゃべりなたまごやき 寺村輝夫/作 長新太/画 福音館書店 E903.6 チ						
	<table border="1" data-bbox="472 1778 1455 1839"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>15分</td> <td>王さま・うそ</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1839 1455 2076">王さまは、鳥小屋にぎゅうづめになっているにわとりを見つけ、かわいそうになって鍵を開けた。すると、にわとりたちは逃げ出し、お城中が大騒ぎになった。家来たちが鍵を開けた犯人を見つけようとするので、王さまはこっそり鍵を捨てた。ところが、捨てたところを一羽のにわとりに見られ、「だまっていろっ」と口止めをする。</p>	低	中			15分	王さま・うそ
低	中			15分	王さま・うそ		

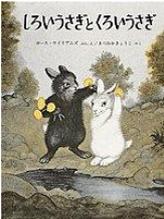
16	おだんごばん 瀬田貞二/訳 脇田和/絵 福音館書店 E903.6ワ				
	低	中		5分	ロシア民話
<p>おばあさんがなげなしの粉を使って焼いたおだんごばん。冷ますために窓のところにおかれていたおだんごばんは、寂しくなり、ころころころがって家の外に飛び出した。野原でうさぎに食べられそうになり、うたをうたって転がりながら逃げ出すが、今度はおおかみに出くわす。</p>					
17	おなかのかわ 瀬田貞二/再話 村山知義/絵 福音館書店 E903.6ム				
	低	中		11分	猫・食いしんぼう
<p>猫とオウムがお互いごちそうに呼ぶことになった。ところが、ひどいけちんぼの猫は、ごちそうを少ししか出さない。オウムはたくさんのごちそうをこしらえたが、猫は全部一人で食べてしまう。猫はオウムまで丸のみにし、その後もおばあさん、馬方、ロバ、王様、お妃様兵隊たち、ソウト、次々に飲み込んでしまう。</p>					
18	おばあさんのすぷーん 神沢利子/作 富山妙子/絵 福音館書店 E903.6ト				
	低			5分	ねずみ・冬
<p>山の中の小さな家で一人暮らしているおばあさんがいた。おばあさんはスープを飲む古いスプーンを大事にしていた。ところが、ある日カラスがスプーンを取って行ってしまう。カラスは木のまたにスプーンを隠すが、やがて3匹のねずみがスプーンを見つける。ねずみたちはスプーンに乗って雪山をすべり下り、おばあさんの家に飛び込んだ。</p>					
19	おばけのひっこし さがらあつこ/文 沼野正子/絵 福音館書店 E903.6又				
	低	中	高	8分	おばけ
<p>京の都のはずれに住む身分の高い男が、引っ越すための大きな家を探していると、一軒の大きな空き家を見つけた。おばけが出ると近所の者に止められたが、男は家を気に入り一晩泊まることにする。実は天井裏には本当におばけたちが住んでいて、男を追い出そうと交代でおどかすが、男はちっともこわがらない。</p>					
20	おばけりんご ヤーノシュ/作 矢川澄子/訳 福音館書店 E903.6ヤ				
	低	中		7分	りんご
<p>昔ワルターという貧乏な男の人が、1本のりんごの木をもっていた。一度も実をつけたことがないので、ワルターは、よその木をみて悲しくなった。そこでうんと心を込めて、1つでいいからリンゴの実がほしいと願うと、やがて木に花が咲き、リンゴの実が1つなった。ワルターが大事に育てると、その実はどんどん大きくなっていく。</p>					

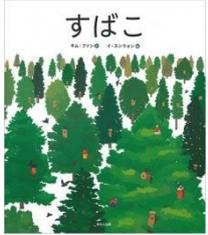
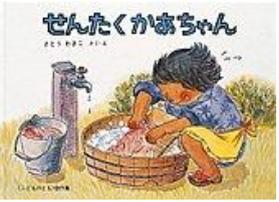
21	おまたせクッキー パット・ハッチンス/作 乾侑美子/訳 偕成社 E903.6 ハ			
	低 中 高	4分	数	
<p>ビクトリアとサムがお母さんの焼いてくれた12枚のクッキーを6枚ずつ分けようとしていると、玄関のベルが鳴り、お隣のトムとハナがやって来た。4人で3枚ずつ分けようとしていると、またベルが鳴り友だちがやって来る。こうして人数がどんどん増え、クッキーを一人1枚ずつ分けようとしているところに、またベルが鳴る。</p>				
22	かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック/作 神宮輝夫/訳 富山房 E903.6 セ			
	低	5分	旅・いたすら	
<p>ある晩、マックスはオオカミのぬいぐるみを着ると大暴れをする。とうとうお母さんに怒られ、夕ご飯抜きで寝室に放りこまれた。すると寝室が森になり、波が打ち寄せた。マックスは船に乗って航海し、怪獣たちのいる所へたどり着いた。マックスは怪獣ならしの魔法を使ってみんなの王様になり、楽しく過ごす…。</p>				
23	かさどろぼう シビル・ウェッタシンハ/作・絵 猪熊葉子/訳 徳間書店 E903.6 ウ			
	低 中 高	中学	11分	スリランカ
<p>スリランカの小さな村では、誰も傘を知らない。村のキリ・ママおじさんは生まれて初めて町に出かけ、きれいで便利な傘に感心して一本買う。ところが帰りに寄り道をしている間に傘を誰かに盗まれてしまった。何度買って帰っても同じことが起るので、キリ・ママおじさんは、傘の中に小さく切った紙きれを入れ、犯人を捕まえようとする。</p>				
24	かさぶたくん 柳生弦一郎/作 福音館書店 491			
	低 中 高	9分	科学絵本	
<p>転んですりむいたり靴ずれをすとかさぶたができる。かさぶたは何でできているのだろうか？ かさぶたは、血でできている。傷ができると、血の中に入っている血小板などが傷口に集まって血を固める。かさぶたは血でできた「傷のふた」なのだ。かさぶたの下では新しい皮膚が作られ、皮膚ができるとかさぶたは自然にとれてしまう。</p>				
25	かにむかし 木下順二/文 清水崑/絵 岩波書店 E903.6 シ			
	低 中	13分	日本昔話	
<p>昔々、カニが庭にまいた柿の実を取ろうとしていると、山から猿がやって来て、木に登って柿を食べ始めた。カニがもいってくれと言うと、猿は青い実を投げつけたので、カニはつぶれてしまった。つぶれたカニの下からは子どもたちが生まれ、子ガニたちはぱんぱんぐりや蜂、牛のフンなどと共に仇討ちに行く。</p>				

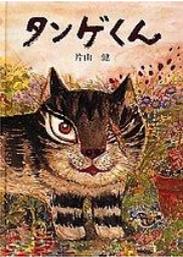
26	からすたろう やしまたろう/文・絵 偕成社 E903.6 ヤ					
	<table border="1" data-bbox="523 188 1461 241"> <tr> <td>高</td> <td>中学</td> <td>12分</td> <td>学校・先生</td> </tr> </table> <p data-bbox="485 250 1461 483">「ちび」とよばれる少年は、クラスの皆からのけものにされ、いつも一人であそんでいた。それでも雨の日も嵐の日も休まず学校にやってくるちびが六年生になったとき、いそべ先生がうけもちになる。ちびが自然のことをよく知っていることなどに気づいて感心してくれる先生と出会い、ちびは学芸会の舞台でからすの鳴き声を披露する。</p>	高	中学	12分	学校・先生	
高	中学	12分	学校・先生			
27	ガラスめだまときんのつなのヤギ スズキコージ/絵 田中かな子/訳 福音館書店 E903.6 ス					
	<table border="1" data-bbox="485 586 1461 640"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>9分</td> <td>ベラルーシ民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="485 649 1461 882">おばあさんの畑では麦が青々と茂って大きくなった。ある日、畑にヤギが入り込み、麦を食べては踏みつけていた。おばあさんが追いだそうとしても、ヤギは畑から出ていかない。クマが言っても出ていかず、オオカミやキツネ、ウサギが言っても同じだった。最後に蜂が飛んできて、自分がヤギを追いだしてやると言い出した。</p>	低	中	高	9分	ベラルーシ民話
低	中	高	9分	ベラルーシ民話		
28	きんいろのとき ゆかいな秋のものがたり アルピン・トレッセルト/文 ロジャー・デュボアザン/絵 えくにかおり/訳 ほるぷ出版 E903.6 デ					
	<table border="1" data-bbox="523 1025 1461 1079"> <tr> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>7分</td> <td>秋・収穫</td> </tr> </table> <p data-bbox="485 1088 1461 1290">秋の収穫の時期がくると、子どもたちは落ち葉のしきつめられた森を歩き、果樹園では赤いリンゴや金色のなしの収穫がはじまる。木々はもえるような赤、黄色、金色。地面や屋根は白い霜の結晶できらきら輝いている。霜が深く根を下ろすころには収穫が終わり、皆集まって感謝祭を過ごす。</p>	中	高	中学	7分	秋・収穫
中	高	中学	7分	秋・収穫		
29	くまのコールテンくん ドン=フリーマン/作 松岡享子/訳 偕成社 E903.6 ス					
	<table border="1" data-bbox="485 1393 1461 1447"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td>7分</td> <td>くま・友達</td> </tr> </table> <p data-bbox="485 1456 1461 1688">くまのぬいぐるみのコールテンくんは、デパートのおもちゃうりばにいる。ある朝、一人の女の子がコールテンくんをほしがるが、母親はズボンのつりひものボタンがとれていると買ってしてくれなかった。その夜遅く、コールテンくんは、とれてしまったボタンを探すため、おもちゃうりばを抜け出し、デパートの中を探検する。</p>	低	中		7分	くま・友達
低	中		7分	くま・友達		
30	クマよ 星野道夫/文・写真 福音館書店 489					
	<table border="1" data-bbox="523 1792 1461 1845"> <tr> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>5分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="485 1854 1461 2078">子どもころ物語の中でしか見たことのなかったクマ。著者はあるとき、町の中にいる自分と、遠い山中にいるクマとの間には同じ時間が流れていると気づく。写真家となった著者は、アラスカの山中のクマと、互いに気配を感じながら、四季を共有する。クマへのよびかけと、雄大な自然とクマの写真で構成されている。</p>	中	高	中学	5分	科学絵本
中	高	中学	5分	科学絵本		

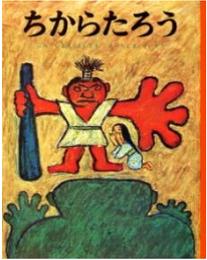
31	くるくるくるみ 松岡達英/作・絵 そうえん社 625.72						
	<table border="1" data-bbox="472 190 1455 246"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>7分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 246 1455 488">田舎のおじいちゃん、おばあちゃんの家で、ゆうかちゃんはくるみ料理を手伝った。くるみがどのようにできるのか興味をもったゆうかちゃんは、次の秋、くるみをとりにまた田舎に行く。くるみは緑色の皮で包まれていて、踏むと茶色い殻がでてくる。リスたちが土の中に蓄えたまま食べ忘れたくるみからは、また芽が出てくる。くるみは種なのだ。</p>	低	中			7分	科学絵本
低	中			7分	科学絵本		
32	くんちゃんのだいらょこう ドロシー・マリノ/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店 E903.6 マ						
	<table border="1" data-bbox="472 586 1455 642"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>12分</td> <td>くま・冬</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 642 1455 884">もうすぐ冬ごもりの季節。子ぐまのくんちゃんは、暖かい南の国に渡るといふ鳥の話を聞き、自分も南の国に行きたいとお母さんに言う。お父さんの許しをもらい、くんちゃんはまず丘のてっぺんまで登るが、鳥たちの行き先を見るための双眼鏡を取りに家に帰る。くんちゃんはまた丘に登るが、今度はつりざおが必要だと思いつき、丘を降りて家に帰る。</p>	低	中			12分	くま・冬
低	中			12分	くま・冬		
33	こいぬがうまれるよ ジョアンナ・コール/文 ジェローム・ウェクスラー/写真 つぼいいくみ/訳 福音館書店 489.5						
	<table border="1" data-bbox="472 1028 1455 1084"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>6分</td> <td>科学絵本・誕生</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1084 1455 1281">お隣の家の犬に赤ちゃんが生まれることになった。出産の日が来ると、母犬は箱に入って、中の紙をびりびりにして寝床をつくる。母犬がふんばると赤ちゃん犬が次々生まれた。母犬は歯でへその緒を切ってやり、赤ちゃん犬をなめてきれいにする。</p>	低	中	高		6分	科学絵本・誕生
低	中	高		6分	科学絵本・誕生		
34	これはのみのぴこ 谷川俊太郎/作 和田誠/絵 サンリード E903.6 ワ						
	<table border="1" data-bbox="472 1379 1455 1435"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>6分</td> <td>ことばあそび</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1435 1455 1677">「これはのみのぴこ」「これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもん」。ページをめくると、前のページの言葉に続けて文章が増え、ひとつの文章がどんどん長くなっていく。最後は1ページいっぱいに言葉が続き、「のみのぴち」と、のみに戻って終わる。</p>	低	中	高	中学	6分	ことばあそび
低	中	高	中学	6分	ことばあそび		
35	さがしています アーサー・ピナード/作 岡倉禎志/写真 童心社 911.5						
	<table border="1" data-bbox="472 1776 1455 1832"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>8分</td> <td>詩・写真・原爆</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1832 1455 2067">1945年8月6日の朝8時15分、ヒロシマに原子爆弾が落とされた。針が止まったままの時計、ごはんが入ったままのゆがんだ弁当箱、人影が黒く残った銀行の階段…。残された声なきものたちが、「カタリベ」として、持ち主や「その日」の記憶を語る。</p>		中	高	中学	8分	詩・写真・原爆
	中	高	中学	8分	詩・写真・原爆		

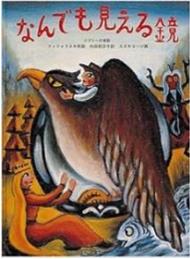
36	三びきのやぎのらがらどん マーシャ・ブラウン/絵 瀬田貞二/訳 福音館書店 E903.6 ブ						
	<table border="1" data-bbox="472 188 1461 248"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>ノルウェー昔話・トロール</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 248 1461 501">昔、大中小の3匹のヤギのらがらどんがいた。ある時、山の草場に行こうとして谷川の橋を渡った。最初に小さいヤギのらがらどんが渡ると、橋の下に住む大きなトロールが食べようとした。小さいヤギは、すぐに2番目ヤギが来るからと言って渡る。2番目ヤギは大きいヤギが来るからと言って渡った。そこへ大きいヤギが渡って来た。</p>	低				5分	ノルウェー昔話・トロール
低				5分	ノルウェー昔話・トロール		
37	しあわせなふくろう ホイテーマ/文 チェレスチーノ・ピヤッチ/絵 おおつかゆうぞう/訳 福音館書店 E903.6 ピ						
	<table border="1" data-bbox="472 647 1461 707"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>オランダ民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 707 1461 916">古い石壁の中に住んでいる二羽のふくろうは、いつもしあわせにくらしていた。一方百姓の家の鳥たちは年中けんかばかり。くじゃくは、ふくろうがなぜけんかをしないのか不思議に思い訳を聞きに行くと、ふくろうは鳥たちに自分たちのことを話しはじめた。</p>	低	中			5分	オランダ民話
低	中			5分	オランダ民話		
38	しずくのぼうけん マリア・テルリコフスカ/作 ボフダン・ブランコ/絵 うちだりさこ/訳 福音館書店 E903.6 ブ						
	<table border="1" data-bbox="472 1061 1461 1122"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>7分</td> <td>科学絵本、水</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1122 1461 1319">ある水曜日、村のおばさんのバケツから飛び出したひとしずくの水が、旅に出た。まずは、ほこりを取りに洗濯屋、病院へ。逃げ出して外に出ると太陽に照りつけられ蒸発し、雨になり、冷えて氷となり、また溶けてしずくに…。姿形を変えて、しずくの冒険は続く。</p>	低	中	高		7分	科学絵本、水
低	中	高		7分	科学絵本、水		
39	ジャイアント・ジャム・サンド ジョン・ヴァーノン・ロード/文・絵 安西徹雄/訳 アリス館 E903.6 口						
	<table border="1" data-bbox="472 1420 1461 1480"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>6分</td> <td>ハチ</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1480 1461 1666">蒸し暑い夏、チクチク村に 400 万匹のハチの大群がやってきた。ピクニックはめちゃくちゃ、お屋敷のだんなのはげあたまも襲われ、村中が大弱り。村人たちは話し合い、ハチの一番の好物、ジャムをたっぷりとぬった、ジャイアント・ジャム・サンドをつくって、わなにすることを思いつく。</p>	低	中	高		6分	ハチ
低	中	高		6分	ハチ		
40	11ぴきのねこ 馬場のぼる/作 こぐま社 E903.6 バ						
	<table border="1" data-bbox="472 1767 1461 1827"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>ねこ・魚</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1827 1461 2056">11ぴきのねこはいつもおなかをすかせていた。山のずっとむこうにあるみずうみに、かいぶつみたいな大きな魚がすんでいると聞き、ねこたちはでかけた。海のようなみずうみを見つけたねこたちが、いかだを作り待っていると、ついに大きな魚が現れた。11ぴきのねこは奮闘の末、ついに魚を捕まえて持ち帰ることにした。</p>	低	中			5分	ねこ・魚
低	中			5分	ねこ・魚		

41	じゅげむ (落語絵本) 川端誠/文・絵 クレヨンハウス E903.6 カ		
	中 高 中学	11分	落語・名前
<p>生まれた男の子にいい名前をつけようと、お寺の和尚さんに相談する男。「寿限無（じゅげむ）」など縁起のいい名前をいくつも挙げてもらい、その中から選ぶことにした。ところが男は選びきれず、もらった名前をすべてつなげてとんでもなく長い名前にしてしまったため、皆が子どもの名前を言うたびに時間がかかってしまう。</p>			
42	しんせつなともだち 方 軼羣/作 村山知義/画 君島久子/訳 福音館書店 E903.6 ム		
	低	5分	冬・友達・思いやり
<p>雪が降る寒い日、こうさぎはかぶを2つ見つけた。寒くて食べ物がないだろうと、かぶの1つを、ともだちのろばの家においてくる。食べ物を探しに出かけていたろばは、帰ってきてかぶを見つけるが、寒くて食べ物がないだろうと、ともだちのこやぎの家にとっとかぶをおいてくる。帰ってきたこやぎも、こじかにかぶをあげることにする。</p>			
43	しろいうさぎとくろいうさぎ ガース・ウィリアムズ/文・絵 松岡享子/訳 福音館書店 E903.6 ウ		
	低 中 高 中学	6分	愛情
<p>白いウサギと黒いウサギが広い森の中に住んでいた。2匹は一日中楽しく遊んで暮らしていたが、ある日馬跳びをして遊んでいた黒いウサギが悲しそうな顔をする。白いウサギが訳を尋ねると、ちょっと考えていたと答える。黒いウサギは、かくれんぼをしても冷たい水を飲んでも悲しそうな顔をする。</p>			
44	スイミー レオ・レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好学社 E903.6 レ		
	低	3分	魚
<p>広い海のどこかに小さな赤い魚のきょうだいたちがくらしていた。その中の1匹、スイミーは黒くて誰よりも泳ぎが速かった。ある日、恐ろしいマグロが赤い魚たちを1匹残らず飲み込んだが、スイミーだけは逃げた。スイミーは海を泳ぎながら、すばらしい生きものたちを見て元気を取り戻し、きょうだいとそっくりの赤い魚たちと出会う。</p>			
45	すてきな三にんぐみ トミー・アンゲラー/作 今江祥智/訳 偕成社 E903.6 ウ		
	低 中	5分	泥棒
<p>黒マントに黒いぼうしの泥棒3人組。夜になると馬車を止め、乗客のお金や宝石を奪って山の隠れ家に運び込んでいた。ある夜、いつものように馬車を止めたが、乗っていたのはみなしごのティファニーちゃんだけだった。隠れ家に連れてこられたティファニーちゃんは宝物を見つけ、これをどうするのと泥棒たちに尋ねた。</p>			

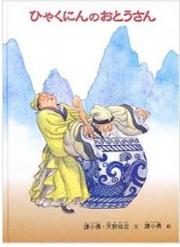
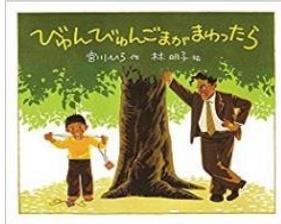
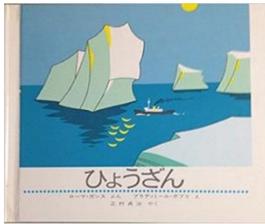
46	すばこ キム・ファン/文 イ・スンウォン/絵 ほるぷ出版 488						
	<table border="1" data-bbox="472 188 1455 235"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>5分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 235 1455 477">昔ドイツに、鳥が大好きなベルレプシュ男爵という人がいた。男爵は自分の森にもっと多くの鳥が来てくれる方法を考え、何千もの巣箱を作って木にかけた。ある時、男爵の住む地方でハマキムシが大発生する。木々の葉が食われ枯れる中、男爵の森だけが、巣箱で育った鳥たちに守られ無事だった。他の人たちも真似をして巣箱をかけ始め、やがて世界中に広まってゆく。</p>	低	中	高		5分	科学絵本
低	中	高		5分	科学絵本		
47	スーホの白い馬 大塚勇三/再話 赤羽末吉/画 福音館書店 E903.6 ア						
	<table border="1" data-bbox="472 573 1455 638"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>13分</td> <td>モンゴル民話・楽器</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 638 1455 880">昔、モンゴルにスーホという貧しい羊飼いの少年がいた。ある日、スーホは白い子馬を見つけて大切に世話をする。白馬は立派に育って競馬の大会で一等になったが、それを見た殿様は無理やり馬を奪う。白馬は逃げ出し、家来の放った弓がささって死んでしまう。ある夜、スーホの夢に白馬が現れ、自分の骨や皮で楽器を作るよう告げる。</p>	低	中	高	中学	13分	モンゴル民話・楽器
低	中	高	中学	13分	モンゴル民話・楽器		
48	せかいいちおいしいスープ マーシャ・ブラウン/文・絵 こみやゆう/訳 岩波書店 E903.6 ブ						
	<table border="1" data-bbox="472 976 1455 1025"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>6分</td> <td>知恵</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1025 1455 1265">お腹をすかせた3人の兵隊が、故郷に帰る途中、食べ物を分けてもらうため村に立ち寄ることにした。ところがその話を聞きつけた村人たちは、自分たちの食べ物を隠してしまう。村人から食べ物を分けてもらえない兵隊たちは村人の前で、自分たちは今から石のスープを作ると言い出す。すると村人たちは興味津々で集まってきた。</p>	低	中	高		6分	知恵
低	中	高		6分	知恵		
49	せんたくかあちゃん さとうわきこ/作・絵 福音館書店 E903.6 サ						
	<table border="1" data-bbox="472 1361 1455 1422"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>9分</td> <td>雷</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1422 1455 1675">洗濯好きのかあちゃんがいた。ある日、猫や犬、子どもたちまで洗って庭に干しておく、空からかみなり様様が落ちてきた。かあちゃんがかみなり様まで洗うと、かみなり様の目鼻が消えてなくなってしまった。そこで子どもたちがクレヨンで目鼻を描いてやると、かみなり様はすっかりいい男になり、大喜びで空に帰る。</p>	低	中			9分	雷
低	中			9分	雷		
50	だいくとおにろく 松居直/再話 赤羽末吉/画 福音館書店 E903.6 ア						
	<table border="1" data-bbox="472 1771 1455 1825"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>5分</td> <td>日本昔話・名前</td> </tr> </table> <p data-bbox="472 1825 1455 2063">昔、どうしても橋を架けることができない急流があった。名高い大工がこの川に橋を架けてくれと頼まれた。大工が川を見つめていると、流れの中から大きな鬼が現れた。鬼は目玉をよこしたら代わりに橋を架けてやると言う。橋は二日で完成し、鬼は目玉をよこせと迫るが、待ってくれという大工に、自分の名前を当てたら許すと言う。</p>	低	中	高		5分	日本昔話・名前
低	中	高		5分	日本昔話・名前		

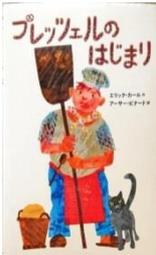
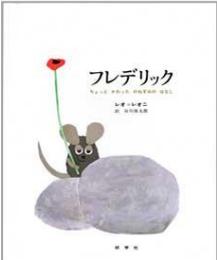
51	たいせつなこと マーガレット・ワイズ・ブラウン/文 レナード・ワイズガード/絵 うちだややこ/訳 フレーベル館 E903.6ワ						
	<table border="1" data-bbox="478 239 893 286"> <tr> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>4分</td> <td>詩</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 291 1453 472">スプーン、ひなぎく、雨、草、雪、身近にあるささやかなもの。それぞれに素敵な姿かたちや役割を持つけれど、共通の大切なことがひとつある。スプーンは使うと上手に食べられること、雨はみずみずしく潤すこと、あなたは、あなたであること。</p>	中	高	中学	4分	詩	
中	高	中学	4分	詩			
52	だいふくもち 田島征三/作 福音館書店 E903.6タ						
	<table border="1" data-bbox="478 577 893 624"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>6分</td> <td>冬・もち</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 629 1453 862">昔あるまちに、ごさくという、ぐうたらな男が住んでいた。ある冬の夜、ごさくを呼ぶ声が聞こえ床下を見ると、ひしゃげただいふくもちが「何かくれ」という。300年何も食べていないというだいふくもちにあずきを与える、やがて小さなだいふくもちを次々とうんだ。そのもちのうまさに、商売になると考えたごさくは、店を出して大金持ちになる。</p>	低	中	高	中学	6分	冬・もち
低	中	高	中学	6分	冬・もち		
53	タンゲくん 片山健/文・絵 福音館書店 E903.6カ						
	<table border="1" data-bbox="478 992 893 1039"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>15分</td> <td>猫・目</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1043 1453 1232">ある日〈わたし〉の家に、片方の目がつぶれている見たこともない猫がやって来た。〈わたし〉の家に居ついたタンゲくんは、虫取りの名人で掃除機嫌い、満月の夜には家じゅうを走り回る。そのくせ、タンゲくんは〈わたし〉と外で会っても知らんぷりをする。</p>	低	中			15分	猫・目
低	中			15分	猫・目		
54	ちいさいおうち バージニア・リー・バートン/文・絵 石井桃子/訳 岩波書店 E903.6バ						
	<table border="1" data-bbox="478 1384 893 1431"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>15分</td> <td>家</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1435 1453 1624">静かな田舎に小さいお家が建っていた。小さいお家は四季の移り変わりを眺め、幸せに暮らしていた。やがて月日が流れ、周りに広い道路が作られ、たくさんの家やビルが建ち、車や電車が走るようになった。そして小さいお家に住む人は誰もいなくなってしまった。</p>	低	中	高	中学	15分	家
低	中	高	中学	15分	家		
55	ちいさなたいこ 松岡享子/作 秋野不矩/絵 福音館書店 E903.6ア						
	<table border="1" data-bbox="478 1776 893 1823"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>8分</td> <td>たいこ・かぼちゃ・夏</td> </tr> </table> <p data-bbox="478 1827 1453 2038">心優しい百姓の夫婦の畑に、みごとなかぼちゃの実がなった。ある夜、二人が床につくころ、どこからか楽しそうな祭囃子が聞こえてきた。毎夜続く祭囃子を不思議に思った夫婦が外に出てみると、畑のかぼちゃの中から聞こえてきた。次の日、夫婦がかぼちゃを枕元に置いてみると、中で小さな人たちがたいこをたたきおどっていた。</p>	低	中			8分	たいこ・かぼちゃ・夏
低	中			8分	たいこ・かぼちゃ・夏		

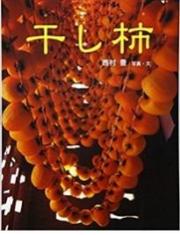
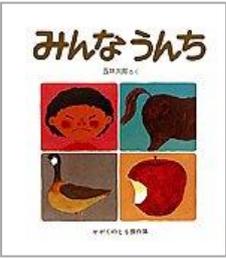
56	ちからたろう 今江祥智/文 田島征三/絵 ポプラ社 E903.6 夕						
	<table border="1" data-bbox="485 197 895 248"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>13分</td> <td>日本民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 257 1449 488">昔、貧しいじいさまとばあさまがこんび（垢）を集めて人形を作った。人形は飯を食って大きくなり、ちからたろうと名付けられた。ちからたろうは力試しの旅に出て、力自慢のみどうっこたろうといしこたろうを負かした。一緒に旅を続けた3人は大きな町に来たが、その町には化け物が出て娘を取ったり田や畑を荒らしたりするという。</p>	低	中	高		13分	日本民話
低	中	高		13分	日本民話		
57	ちびゴリラのちびちび ルース・ボーンスタイン/作 岩田みみ/訳 ほるぷ出版 E903.6 ポ						
	<table border="1" data-bbox="485 607 895 658"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3分</td> <td>誕生日</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 667 1449 891">森の動物たちは、みんな小さなゴリラのちびちびが好きだった。ライオンのおじさんは、ちびちびを喜ばせようと尻尾をひっぱらせて大きな悲鳴をあげてやる。カバのおばさんは背中に乗せてどこへでも連れて行ってやる。ところがある日、ちびちびは大きくなり始め、とうとう大きくて立派なゴリラに成長する。</p>	低				3分	誕生日
低				3分	誕生日		
58	月人石 乾千恵/書 谷川俊太郎/文 川島敏生/写真 福音館書店 728						
	<table border="1" data-bbox="485 1003 895 1055"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>3分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 1064 1449 1243">「扉—ところのとびらをあけてごらん」、「風—かぜがきのうをきょうにつなぐ」、「山—かなしいみをうけとめてくれるしずかなやま」。ページを開くと、左のページには一文字の力強い書。右のページには、言葉と写真。書道家、詩人、写真家がそれぞれの方法で1つの言葉表現する。</p>		中	高	中学	3分	科学絵本
	中	高	中学	3分	科学絵本		
59	てぶくろ エウゲーニー・M・ラチョフ/絵 内田莉莎子/訳 福音館書店 E903.6 ラ						
	<table border="1" data-bbox="485 1377 895 1429"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>ウクライナ民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 1438 1449 1617">おじいさんが森で手袋を片方落していった。ネズミが手袋を見つけ、住むことにした。そこへカエルがはねて来て一緒に住むことにした。続いてウサギ、キツネ、オオカミ、イノシシ、クマと次々と動物が現れて一緒に住むことにしたので、手袋ははじけそうになった。</p>	低				5分	ウクライナ民話
低				5分	ウクライナ民話		
60	トラのじゅうたんになりたかったトラ ジェラルド・ローズ/文・絵 ふしみみさを/訳 岩波書店 E903.6 口						
	<table border="1" data-bbox="485 1774 895 1825"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>トラ</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 1834 1449 2058">インドのジャングルに住むトラは、年を取り獲物がとれず骨と皮ばかりにやせていた。王さまの宮殿を眺めていたトラは、王様一家が居心地のよい場所で食事をしているのを見て、自分も仲間に入りたいと思う。ある日、トラは召使いの目を盗んで、トラの毛皮を干していた洗濯ひもにぶらさがり、じゅうたんのふりをする。</p>	低	中			6分	トラ
低	中			6分	トラ		

61		どろんこハリー		ジーン・ジオン/文 マーガレット・ブレイ・グレアム/絵 渡辺茂男/訳 福音館書店 E903.6 グ	
	低			6分	犬・お風呂・家出
<p>ハリーは、黒いぶちのある白い犬。お風呂が大嫌いで、ある日お風呂に入れられそうになったのでブラシを裏庭に埋めて外へ抜け出した。道路工事をしているところや鉄道線路の橋で遊び、汚れて白いぶちのある黒い犬になってしまう。家に帰っても家の人はハリーだと分らない。</p>					
62		なんでも見える鏡		フィツォフスキ/再話 スズキコージ/絵 内田莉莎子/訳 福音館書店 E903.6 ス	
	低	中		8分	ジプシーの昔話
<p>働き者のジプシーの男は、けちで鞭をふるう主人から逃げて旅にでた。途中で銀色の魚やワシの子、ありの王様の窮地を救い、美しい王女のいる国に着く。国には、王女から隠れて見つからなかった者が王女の夫になれるというお触れがあるが、王女は何でも見える魔法の鏡を持っていた。男は王女に隠れてみせると言い、銀色の魚を呼び出す。</p>					
63		にぎりめしごろごろ		小林輝子/再話 赤羽末吉/画 福音館書店 E903.6 ア	
	低	中	高	9分	日本の昔話・鬼
<p>昔、きこりのおじいさんが住んでいた。ある日、山でにぎりめしを食べようとするどと転がって行ってしまった。探して行くと、にぎりめしはじそうさまのお堂の棚に乗っていた。おじいさんがじそうさまに言われた通りお堂の天井に隠れていると、夜中に鬼が酒盛りを始めた。</p>					
64		ねえ、どれがいい？		ジョン・バーニングム/作 まつかわまゆみ/訳 評論社 E903.6 バ	
	低	中	高	5分	ナンセンス
<p>「もしもだよ、きみんちのまわりがかわるとしたら、こうずいと、おおゆきと、ジャングルと、ねえ、どれがいい？」という奇想天外な質問で始まり、2000 円でイバラに飛び込むのと、10000 円に変えるを飲み込むのと、20000 円でお化け屋敷に泊まるのと、どれがいい？ など答えに悩む質問が続く。</p>					
65		バスラの図書館員—イラクで本当にあった話—		ジャネット・ウィンター/文・絵 長田弘/訳 晶文社 E903.6 ウ	
		中	高	中学	6分 図書館・戦争
<p>アリアさんは、戦争が囁かれるイラクの港町バスラの図書館員。図書館の貴重な本が戦争で滅びることを恐れていたアリアさんは、当局に本を安全な場所に移すようお願いするが却下されてしまう。戦争が激しくなる中、アリアさんは、町の人たちと協力して図書館から3万冊の本を運び出し、兵士たちの目から隠して、本を守ろうとする。</p>					

66	はちうえはぼくにまかせて ジーン・シオン/文 マーガレット・ブロイ・グレアム/絵 森比左志/訳 ペンギン社 E903.6 グ						
	<table border="1" data-bbox="475 241 895 293"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>10分</td> <td>夏・仕事</td> </tr> </table> <p>夏休みにどこにも行かないトミーは、旅行に行く近所の人鉢植えを預かって世話をする仕事を始めた。日光のあたり具合や水の量も考えて世話をするうち、鉢植えはどんどん育ち、家中植物だらけに。トミーは図書館に行き、育ちすぎた鉢植えの扱い方を調べることにした。</p>	低	中			10分	夏・仕事
低	中			10分	夏・仕事		
67	はなのあなのはなし 柳生弦一郎/文・絵 福音館書店 491.3						
	<table border="1" data-bbox="475 595 895 647"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>8分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>人間の鼻の穴は、人によって大きさや形がいろいろある。ほとんどの動物の鼻の穴は人間と同じように2つあるが、イルカの鼻の穴は、頭の上に1つだけある。アザラシやカバの鼻の穴は開けたり閉じたりできる。鼻の穴の役目は息をすることや匂いをかぐこと。鼻の穴や体にある他の穴は大事なものだからきれいにしておかないといけない。</p>	低	中	高	中学	8分	科学絵本
低	中	高	中学	8分	科学絵本		
68	はらぺこあおむし エリック・カール/作 もりひさし/訳 偕成社 E903.6 カ						
	<table border="1" data-bbox="475 996 895 1048"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5分</td> <td>食いしんぼう・病気</td> </tr> </table> <p>葉っぱの上の小さな卵から生まれたあおむしは、おなかがぺこぺこ。月曜日にリンゴを1つ食べるがおなかはぺこぺこ。火曜日に梨を2つ、水曜日にスモモを3つ食べるが、まだおなかはぺこぺこ。そして食べ続けたあげく、土曜日にはチョコレートケーキやアイスクリームなどをたくさん食べたので、あおむしはおなかが痛くなってしまった。</p>	低				5分	食いしんぼう・病気
低				5分	食いしんぼう・病気		
69	ピーターのがみ エズラ・ジャック・キーツ/作・絵 木島始/訳 偕成社 E903.6 キ						
	<table border="1" data-bbox="475 1391 895 1442"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>7分</td> <td>誕生日</td> </tr> </table> <p>今度の土曜日はピーターの誕生日。ピーターはエイミーを誕生日会に招待しようと手紙を書いた。ポストに手紙を出しに行く途中、突然強い風が吹いて、手紙が飛ばされてしまった。ピーターは手紙を追いかけるがつかまらない。その時エイミーがやって来て、一緒に手紙を追いかけた。</p>	低	中			7分	誕生日
低	中			7分	誕生日		
70	ピーナッツ なんきんまめ らっかせい こうやすすむ/文 中島睦子/絵 福音館書店 626						
	<table border="1" data-bbox="475 1778 895 1830"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>4分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>落花生の殻を割ると南京豆、南京豆の薄皮をむいて、油で揚げるとピーナッツ。豆は種だから、生の落花生を土に埋めると根が生えてくる。そのうち莖や本葉が地上に出て成長し、黄色い花をつける。花がしぼんだ後に、とがったものが伸びてきて土の中にもぐりこみ、先が膨らんでくる。落花生は土の下で実がなる豆なのだ。</p>	低	中	高		4分	科学絵本
低	中	高		4分	科学絵本		

71	<h3>ひやくにんのおとうさん</h3> <p>譚小勇・天野祐吉/文 譚小勇/絵 福音館書店 E903.6 夕</p>						
	<table border="1" data-bbox="469 188 893 246"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4分</td> <td>増える</td> </tr> </table> <p>働き者の若い夫婦が畑の中から大きなかめを見つけた。夫がかめの中をぞきこんだ拍子にかぶっていた笠を落とすと、100枚の笠がかめから出てくる。夫婦が村人に笠などをわけてあげると、かめの噂が広まり、町の地主の耳に入った。地主は夫婦からかめを取り上げたが、散々な目にあう。</p>	低				4分	増える
低				4分	増える		
72	<h3>100まんびきのねこ</h3> <p>ワンダ・ガアグ/文・絵 いしいももこ/訳 福音館書店 E903.6 ガ</p>						
	<table border="1" data-bbox="469 591 893 649"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>11分</td> <td>猫</td> </tr> </table> <p>昔、おじいさんとおばあさんが寂しいので猫を1匹飼うことにした。おじいさんは出かけ、猫でいっぱい丘に着いた。どの猫もかわいくて、おじいさんは1匹に決められず、そこにいる猫をみんな連れて帰った。しかしおばあさんからこんなにたくさんの猫は飼えないと言われ、猫たちに一番きれいな猫を決めさせようとする。</p>	低				11分	猫
低				11分	猫		
73	<h3>びゅんびゅんごまがまわったら</h3> <p>宮川ひろ/作 林明子/絵 童心社 E903.6 ハ</p>						
	<table border="1" data-bbox="469 994 893 1052"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>12分</td> <td>学校・先生・遊び</td> </tr> </table> <p>こうすけが小学校の遊び場で骨折してしまったため、遊び場にかぎがつけられてしまった。こうすけたちが、新しい校長先生にかぎをあけてくれるよう頼みにいくと、びゅんびゅんごまを回すことができたらあけるといふ。皆が早速練習して見せにいくと、校長先生は手足を使って2つのびゅんびゅんごまを回してみせる。</p>	低	中	高		12分	学校・先生・遊び
低	中	高		12分	学校・先生・遊び		
74	<h3>ひょうざん</h3> <p>ローマ・ガンス/文 ブラディミール・ポプリ/絵 正村貞治/訳 福音館書店 452</p>						
	<table border="1" data-bbox="469 1397 893 1456"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>6分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>何百年、何千年も積もり続けた雪が固まって厚い氷となり、氷河になる。激しく打ち寄せた波で氷河が割れてできた氷山は、氷河から離れ、沖へ、暖かい所へと流れる。ビルより高い氷山もあるが、表面に現れるのはほんの一部。海の下には8~9倍ものごつごつ角のある氷が広がっているのだ。</p>	低	中	高		6分	科学絵本
低	中	高		6分	科学絵本		
75	<h3>ぶかぶかティッチ</h3> <p>パット・ハッチンス/作・絵 いしいももこ/訳 福音館書店 E903.6 ハ</p>						
	<table border="1" data-bbox="469 1800 893 1859"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3分</td> <td>きょうだい</td> </tr> </table> <p>ティッチは3人きょうだいの末っ子の男の子。ティッチのズボンが小さくなると、兄さんのピートがお古のズボンをくれた。セーターが小さくなると、姉さんのメアリがお古のセーターをくれた。ティッチにはぶかぶかだが、「すぐに大きくなってちょうどよくなる」と言われてしまう。</p>	低				3分	きょうだい
低				3分	きょうだい		

76	ふしぎなナイフ 中村牧江・林健造/作 福田隆義/絵 福音館書店 E903.6 フ						
	<table border="1" data-bbox="477 199 895 241"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>2分</td> <td>変化</td> </tr> </table> <p>表紙をめくると金属製のナイフが描かれている。次のページには「ふしぎなナイフがまがる」の文と、ぐにやりと曲がったナイフの絵。続いて「ねじれる」「おれる」「われる」の言葉にしたがって、自在に姿を変えるナイフが描かれる。最後に「のびて」「ちぢんで」「ふくらんで」ナイフは割れて終わる。</p>	低	中	高		2分	変化
低	中	高		2分	変化		
77	ふしぎなやどや はせがわせつこ/文 いのうえようすけ/画 福音館書店 E903.6 イ						
	<table border="1" data-bbox="477 593 887 636"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>10分</td> <td>中国民話・呪い</td> </tr> </table> <p>昔、趙（ちょう）という若者が、板橋（はんきょう）の町で三娘子（さんじょうし）の宿に泊まった。夜になると、三娘子は一人隠れて小さな木の人形と牛に水を吹きかけた。すると人形たちは動き出し、ソバを作ってソバ餅をこしらえた。それを見ていた趙は朝食に出されたソバ餅を食べなかったが、食べた客たちは口バになってしまった。</p>	低	中	高	中学	10分	中国民話・呪い
低	中	高	中学	10分	中国民話・呪い		
78	富士山にのぼる 石川直樹/文・写真 教育画劇 454.5						
	<table border="1" data-bbox="477 981 887 1023"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>8分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>日本で一番高い山、富士山。見ているだけではつまらないと、著者は冬のある日、富士山に登った。こおって硬くなった雪の上を少しずつ歩く。山の上でテントをはって夜を過ごすとき吹き飛ばされそうな風の音で目が覚める。厳しい氷と雪と風の中を登り、頂上に着いた。皆が知っている富士山だが、自分で登れば必ず新しい世界にであうことができる。</p>		中	高	中学	8分	科学絵本
	中	高	中学	8分	科学絵本		
79	プレッツェルのはじまり エリック・カール/作 アーサー・ビナード/訳 偕成社 E903.6 カ						
	<table border="1" data-bbox="477 1368 887 1411"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>7分</td> <td>パン</td> </tr> </table> <p>ウォルターは腕の良いパン職人で、王様も女王様も彼のパンがお気に入り。しかしある日、材料の牛乳を猫がこぼしてしまい、代わりに水を入れたパンを作ったため王様をかんかんに怒らせてしまった。ウォルターは王様から、明日の朝までに「朝日が3つさしてくるパン」を作らなければ国を出ていこう命じられる。</p>	低	中			7分	パン
低	中			7分	パン		
80	フレデリック レオ・レオニ/作 谷川俊太郎/訳 好学社 E903.6 レ						
	<table border="1" data-bbox="477 1749 887 1792"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>5分</td> <td>ネズミ・詩</td> </tr> </table> <p>牧場の古い石垣の中に5匹の野ネズミが住んでいた。4匹の野ネズミは冬に備えて食べ物を集めるが、フレデリックは座っているだけ。皆がどうして働かないのか尋ねると、フレデリックは、お日さまの光や色、言葉を集めているのだと答える。冬、食べ物がなくなり凍えそうになると、フレデリックは集めていた光や色、言葉について話す。</p>		中	高	中学	5分	ネズミ・詩
	中	高	中学	5分	ネズミ・詩		

81	干し柿 西村豊/文・写真 あかね書房 625.4						
	<table border="1" data-bbox="475 197 890 237"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>6分</td> <td>科学絵本・秋</td> </tr> </table> <p>しぶ柿はそのままではおいしくない。元々はあま柿と同じ種類だが、寒い所ではしぶくなってしまふ。そこで昔の人は干すことで甘くする方法を思いついた。皮をむき、縄でつなぎ、軒下にびっしりと干すと、一面がきれいな柿色になる。太陽や風など自然の力と人の力が合わさって甘い干し柿ができる。</p>	低	中	高		6分	科学絵本・秋
低	中	高		6分	科学絵本・秋		
82	ほね 堀内誠一/文・絵 福音館書店 491.3						
	<table border="1" data-bbox="475 584 890 624"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>4分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>人間は、たくさんの骨が組み合わさった骨格を持ち、関節の部分を使っていろいろな動きができる。骨は柔らかい脳や内臓を守る役割を持っている。脊椎動物は、体の形は違っていても骨格は似ている。そして、人間の作りだした道具や建築物の構造は、動物の骨格の構造と同じものがたくさんある。</p>	低	中	高		4分	科学絵本
低	中	高		4分	科学絵本		
83	マフィンおばさんのぱんや 竹林亜紀/作 河本祥子/絵 福音館書店 E903.6 コ						
	<table border="1" data-bbox="475 976 890 1016"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>パン</td> </tr> </table> <p>マフィンおばさんのぱんやは、町の人が買いにきて毎日大忙し。手伝いの男の子アノダッテは、自分がぱん作りを覚えればおばさんをもっと手伝えると考え、夜の地下室でぱんを作り始める。すると、かまどにいれたパン種がみるみるあふれだし、建物いっぱい膨らみだす。</p>	低				6分	パン
低				6分	パン		
84	みんなうんち 五味太郎/作 福音館書店 481.3						
	<table border="1" data-bbox="475 1364 890 1404"> <tr> <td>低</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p>「おおきいぞうは おおきいうんち ちいさいねずみは ちいさいうんち」という文で始まり、ぞうの大きいうんちとねずみの小さいうんちを並べて描いている。魚、鳥、動物、種類によって形や色や匂いが違う。人間も含め、動物たちのうんちの仕方もそれぞれ違う。生き物は食べるからみんなうんちをする。</p>	低				3分	科学絵本
低				3分	科学絵本		
85	メアリー・スミス アンドレア・ユーレン/作 千葉茂樹/訳 光村教育図書 E903.6 コ						
	<table border="1" data-bbox="523 1758 890 1798"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>4分</td> <td>仕事・時間</td> </tr> </table> <p>メアリー・スミスはめざまし屋。夜明けはまだ先なのに、メアリー・スミスはもうおでかけだ。パン屋の前で立ち止まり、チューブに豆をこめてプッ！とひとふきで窓に命中。起きたパン屋はメアリーにお礼を言うが、メアリーはすぐに汽車の車掌の家へ。また豆を飛ばし、車掌を起こすと、せんたく屋、さかな屋へ。町中を歩き、次から次へと起こしていく。</p>		中	高		4分	仕事・時間
	中	高		4分	仕事・時間		

86

めっきらもっきらどおんどん

長谷川摂子/作 降矢なな/画 福音館書店 E903.6 フ



低 中 8分 おばけ

かんたが神社の森でめちゃくちゃな歌を大声で歌うと、木の穴から変な声が聞こえてきた。その声にさそわれ、かんたは穴の中に吸い込まれた。着いた所は夜の山。へんてこりんな3人のおばけたちが遊ぼうと飛んできた。かんたは枝から枝へ飛び移ったりお宝を交換したり縄跳びをしたり、3人組と楽しく過ごす。

87

モチモチの木

斎藤隆介/作 滝平二郎/絵 岩崎書店 E903.6 夕



低 中 10分 冬・病気

峠の猟師小屋でじさまと二人で暮らす豆太は臆病で、夜じさまを起こさないと一人で雪隠にも行けないほどだった。小屋の前に立っている大きなモチモチの木が怖いのだ。ある晩、じさまが腹痛で苦しみ出した。豆太は怖いのをこらえ、寝巻のまま裸足で半ミチもある麓の村まで泣き泣き医者を呼びに走っていった。

88

もっとおおきなたいほうを

二見正直/作 福音館書店 E903.6 フ



低 中 高 5分 王さま・きつね

王さまは、先祖代々伝わる自慢の大砲をうちたくてたまらない。ある日川で勝手に魚をとっているキツネがいると聞き、川に大砲を持っていく。空に大砲をうち上げてキツネを脅かし大満足の王さまだったが、キツネが王さまのものより大きな大砲をもってくる。王さまはキツネに負けじともっと大きな大砲をつくらせる。すると今度はキツネが…。

89

ものぐさトミー

ペーン・デュボア/文・絵 松岡享子/訳 岩波書店 E903.6 テ



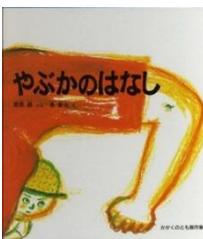
低 中 高 中学 10分 家

トミー・ナマケンボが住んでいるのは電気じかけの家。朝ベッドが自動的に動いてトミーを起こし、お湯が張られたお風呂に落とす。トミーの体を自動的に洗い、乾燥させ、歯磨きも着替えも食事を口に入れるのも、全部電気機械。ところがある夜、嵐で電柱が倒れ、トミーの家の電線がきれてしまう。

90

やぶかのはなし

栗原毅/文 長新太/絵 福音館書店 486.9



低 中 6分 科学絵本

やぶ蚊のおすは、甘い果物が大好きで、人をさして血を吸ったりはしない。人や動物の血を吸うのはめすの蚊だ。お腹の中で卵を育てるのに、果物の汁だけでは栄養が足りないからだ。卵が十分大きくなると、めすは産む場所を探して飛びまわる。汚すぎない水があり、広すぎず狭すぎず、寒すぎず暑すぎない安全な場所を見つけると、卵を産みつけ飛んでいく。

91	ヤンメイズとりゅう 松居直・関野喜久子/再話 譚小勇/絵 福音館書店 E903.6 夕						
	<table border="1" data-bbox="475 197 890 248"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>11分</td> <td>中国の昔話</td> </tr> </table> <p data-bbox="481 257 1449 479">山の中の村に母と住む娘シャオホンメイが、ある日おそろしいりゅうにさらわれてしまう。「私を助けだせるのは弟だけ」と言葉を残すが、家に男の子はいない。母親が泣きながら帰る途中で見つけた真っ赤なやまももの実を食べると、数日後に男の子が生まれた。ヤンメイズと名付けられた子は立派な若者となり、姉を助けにりゅう退治に出かける。</p>	低	中	高		11分	中国の昔話
低	中	高		11分	中国の昔話		
92	ゆうかなアイリーン ウィリアム・スタイグ/作 おがわえつこ/訳 セーラー出版 E903.6 ス						
	<table border="1" data-bbox="475 593 890 645"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td></td> <td>6分</td> <td>冬</td> </tr> </table> <p data-bbox="481 654 1449 875">アイリーンのお母さんが作ったドレスが出来上がった。お屋敷の奥様に今夜のパーティまでに届けなくてはならないが、お母さんは風邪をひいてしまう。そこでアイリーンがお母さんの代わりにドレスを届けることに。雪が降り積もり、風が強く吹く中、アイリーンは必死に前に進むが、途中でドレスが風に吹き飛ばされてしまう。</p>	低	中			6分	冬
低	中			6分	冬		
93	雪の写真家ベントレー ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン/作 メアリー・アゼアリアン/絵 千葉茂樹/訳 BL 出版 E903.6 ア						
	<table border="1" data-bbox="475 1041 890 1093"> <tr> <td></td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>9分</td> <td>伝記絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="481 1102 1449 1276">アメリカの豪雪地帯に生まれたウィリー・ベントレーは雪が大好きでいつも顕微鏡で観察していた。雪の結晶がどれも異なった美しい形をしていることを発見したベントレーは、人にその美しさを伝えるためにカメラ付き顕微鏡を手に入れ、失敗を繰り返しながら雪の結晶を撮り続ける。</p>		中	高	中学	9分	伝記絵本
	中	高	中学	9分	伝記絵本		
94	よかったねネッドくん レミー・シャーリップ/作 やぎたよしこ/訳 偕成社 E903.6 シ						
	<table border="1" data-bbox="475 1391 890 1442"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>4分</td> <td>冒険・ナンセンス</td> </tr> </table> <p data-bbox="481 1451 1449 1673">ネッドくんにびっくりパーティーの招待状が届く。ところが、会場は遠いフロリダだった。友だちが飛行機を貸してくれるが、途中で爆発。でもパラシュートで脱出する。ところが、パラシュートに穴が開いていた。でも下には柔らかい干し草の山があった。こうして次々に起こる困難を幸運で乗りこえ、無事にパーティーの会場にたどりつく。</p>	低	中	高	中学	4分	冒険・ナンセンス
低	中	高	中学	4分	冒険・ナンセンス		
95	ランパンパン マギー・ダフ/再話 ホセ・アルエゴ、アリアンヌ・ドウィ/絵 評論社 E903.6 ア						
	<table border="1" data-bbox="475 1787 890 1839"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td></td> <td>9分</td> <td>インド民話</td> </tr> </table> <p data-bbox="481 1848 1449 2069">とてもいい声の持ち主のクロドリがいた。鳴き声をきいた王様は、クロドリを捕えるよう家来に命じたが、間違ってクロドリの女房を連れ去ってしまった。クロドリは怒り、王様と戦い女房を連れ戻す決意をする。途中、王様に苦しめられたねこやアリ、木の枝や川も仲間になり、彼らを耳の中に入れて、王様の宮殿に向かう。</p>	低	中	高		9分	インド民話
低	中	高		9分	インド民話		

96	ロバのシルベスターとまほうの小石 ウィリアム・スタイク/作 せたていじ/訳 評論社 E903.6 ス					
	<table border="1" data-bbox="523 197 1133 241"> <tr> <td>中</td> <td>高</td> <td>中学</td> <td>11分</td> <td>コレクション・石</td> </tr> </table> <p data-bbox="483 250 1447 427">ロバのシルベスターは、小石を集めるのが大好き。ある日、願いをかなえてくれる赤い小石を見つけるが、家に帰る途中でライオンに会い、岩になりたいと願う。岩になったシルベスターには小石を拾えないので、元の姿に戻ることができなくなってしまう。</p>	中	高	中学	11分	コレクション・石
中	高	中学	11分	コレクション・石		
97	わゴムはどのくらいのびるかしら？ マイク・サーラー/文 ジェリー・ジョイナー/絵 岸田衞子/訳 ほるぷ出版 E903.6 ジ					
	<table border="1" data-bbox="483 591 933 636"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td>3分</td> <td>旅</td> </tr> </table> <p data-bbox="483 645 1447 822">ある日、ぼうやは輪ゴムがどのくらいのびるか、確かめてみることにした。ベッドのわくにひっかけた輪ゴムを持って、出発する。自転車に乗り、バスに乗り、汽車や飛行機にも乗り砂漠を越えてロケット発射場についた。ロケットに乗って、とうとう月に到着した。</p>	低	中		3分	旅
低	中		3分	旅		
98	わたし 谷川俊太郎/文 長新太/絵 福音館書店 E903.6 チ					
	<table border="1" data-bbox="483 987 1013 1032"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>3分</td> <td>科学絵本</td> </tr> </table> <p data-bbox="483 1041 1447 1218">〈わたし〉は、みちこ。男の子から見ると、女の子。お兄ちゃんから見ると、妹。お母さんとお父さんから見ると、娘のみちこ。おばあちゃんから見ると、孫のみちこ。犬のごろうから見ると、人間。知らない人から見ると、誰？ 歩行者天国では、大勢の一人。</p>	低	中	高	3分	科学絵本
低	中	高	3分	科学絵本		
99	ワニのライルがやってきた B・ウェーバー/作 小杉佐恵子/訳 大日本図書 E903.6 ウ					
	<table border="1" data-bbox="483 1368 1045 1413"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td></td> <td>15分</td> <td>ワニ・家族</td> </tr> </table> <p data-bbox="483 1422 1447 1644">東 88 番通りに引っ越してきたプリムさん一家。お風呂場から物音が聞こえたので奥さんがドアを開けてみると、そこにいたのはワニだった。飼い主が置いて行ったワニのライルは、気立てが良く芸達者で働きもので、プリムさん一家とすぐに仲良しになる。ある日ライルは、家の前を通ったブラスバンドのパレードに飛び入り参加して大人気になる。</p>	低	中		15分	ワニ・家族
低	中		15分	ワニ・家族		
100	わらのうし 内田莉紗子/文 フレンチン・ゴルディチューク/絵 福音館書店 E903.6 ゴ					
	<table border="1" data-bbox="483 1787 1101 1832"> <tr> <td>低</td> <td>中</td> <td>高</td> <td>6分</td> <td>ウクライナ昔話</td> </tr> </table> <p data-bbox="483 1841 1447 2063">貧乏なおじいさんとおばあさんがいた。ある日、おじいさんはわらで牛を作り、横っ腹にタールをたっぷり塗った。おばあさんはわらの牛を連れて丘を登り、居眠りを始めた。するとクマがやって来て、タールをはぎとろうとしたが、くっついて離れなくなってしまう。同じようにして、オオカミとキツネも捕まえられてしまった。</p>	低	中	高	6分	ウクライナ昔話
低	中	高	6分	ウクライナ昔話		